



いずみ



令和2年12月1日発行

<学校の教育目標>

かしこい子

やさしい子

たくましい子

チーム和泉

(Tel) 3480-3881 (Fax) 5497-7358 (HP) <<http://www.komae.ed.jp/ele/izumi/>> 校長 伊藤 栄司

相手の今を考えて

校長 伊藤 栄司

12月1日は「世界エイズデー」です。小学校では6年生になると保健の学習でエイズについて学びます。後天性免疫不全症候群（エイズ）に関する意識を高めようと、1988年に世界保健機関（WHO）が「世界エイズデー」を制定しました。世界中でエイズの蔓延防止と患者や感染者に対する差別・偏見の解消を目的として啓発活動が行われています。

エイズパニック

日本でエイズの感染者が初めて確認されたのは1985年のことでした。当時は、病気のことがよくわからず、「触るだけでうつる」と多くの人が誤解したため、パニック状態になっていたことを覚えています。

連日のように報道が繰り返され、感染した人が報じられるとその土地のナンバーを付けた車に張り紙や嫌がらせをしたりするケースが相次ぎました。また、外国人観光客の入浴お断りの銭湯や宿泊施設が出るなど、間違った知識が先行したため、ひどい扱いを受けた方が続出しました。思い返してみると、今回の新型コロナウイルス感染拡大と同じような気がします。30年前の経験が活かされていないことが残念でなりません。

赤いリボン運動

赤いリボンは、もともと、ヨーロッパに古くから伝承される風習の一つで、病気や事故で人生を全うできなかった人々への哀悼の意を表すものです。そして、「私は、エイズに対して偏見を持っていない、エイズと共に生きる人々を差別しない」とメッセージが込められています。色のついたリボンを身に着け、社会全体で考えを共有していく運動は、他にもたくさんあります。例えば、オレンジは「児童虐待防止」、ピンクは「乳がん検診の推進」、グリーンは「移植医療普及」等、現在7色ありそれぞれのシンボルになっています。

リボンはなくても

新型コロナウイルスの感染が広がり始めてからもうすぐ1年になります。感染の仕組みや治療について正しい知識として伝えられることが多くなり、病気に対する意識が変わってきました。しかし、未だに感染した人やその家族に対しての冷たい視線は収まっていないように感じます。リボンはなくても相手の気持ちを思いやり、差別や偏見のない正しい行動をとることは誰もができることです。人の心に負の感染が広がらないよう、学校では偏見、差別、冷やかしなど聞き逃しや見逃しがないようにしていきます。

寒さが厳しくなると同時に感染者数も増えてきました。もし、身近な人が感染した場合どのように接したらよいか、相手の今を想像できる児童を育てていきます。

※東京都教育委員会の資料です。お時間のある時にご一読ください。

漫画形式教材「まるでウイルスみたいに・・・」

都教育委員会ホームページ「考えよう！いじめ・SNS@Tokyo」内
<https://ijime.metro.tokyo.lg.jp/>



12月の主な学校行事

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| 1日(火) 安全点検日 交通安全指導日① | 14日(月) クラブ活動⑨ |
| 3日(木) 保護者会 低・中・高 | 21日(月) ガラコンサート(4年) |
| 4日(金) 交通安全指導日② | 23日(水) 午前授業 |
| 7日(月) クラブ活動⑧ | 24日(木) 特別時程 午前授業 大掃除 給食終了 |
| 8日(火) 心臓検診(1年) | 25日(金) 特別時程 午前授業 終業式 |
| 9日(水) 避難訓練 | |

【 12月の生活目標 】身の回りの整理をしよう